

ネット型 「つないでがんばレー」

学習課題と手立て サポートブック



先生方はゲーム領域を指導する時、「こんな時、どうやって教えればいいのか？」と悩まれた経験はありませんか？本資料「学習課題と手立てサポートブック」は、ゲーム領域でできやすい学習課題に対応する、教師の手立ての具体例をまとめた資料です。

ゲーム部会では、子供たちが主体的に学習課題を解決していくために、どのような指導や支援が有効か検討しています。今年度は、ネット型の実践から子供たちが見いだした学習課題を集めて、大きく6つの項目に分類分けをしました。それぞれの項目で、授業で取り上げられそうな学習課題を選び、教師の手立て（指導や言葉掛けなど）の例を紹介しています。

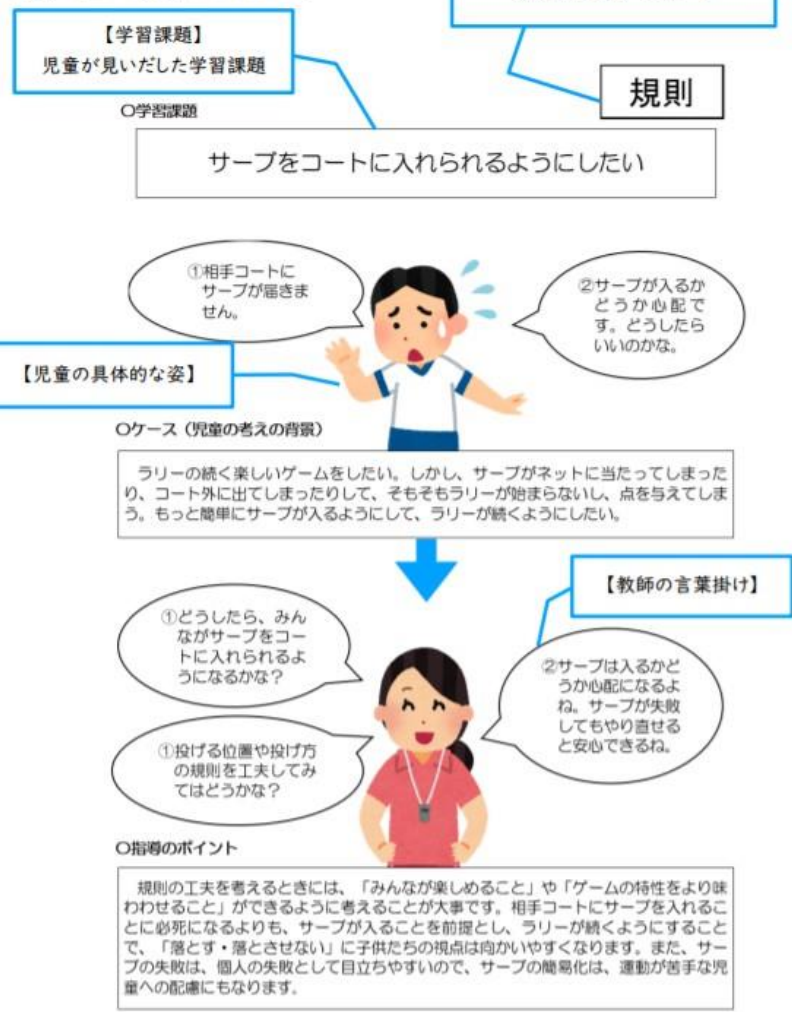
本資料で紹介した教師の手立ては、ほんの一例に過ぎません。子供たち一人一人が主体的に取り組み、学びを深めていくために、本資料が先生方の指導の少しでもサポートとなることを願っています。

【本資料で取り上げる学習課題の一覧】

規則	「サーブをコートに入れられるようにしたい」	…P3
	「みんなが楽しめる規則を考えたい」	…P4
	「お互いに準備ができてから始められるようにしたい」	…P5
態度	「みんなで規則を守って楽しくゲームをしたい」	…P6
	「協力して取り組めるようになりたい」	…P7
	「周りの安全を確かめて学習したい」	…P8
	「周りとは仲良くしながら学習したい」	…P9
落とす	「得点を取りたい」	…P10
	「サーブで得点を取りたい」	…P11
	「遠くに投げ返したい」	…P12
	「速い球で返したい」	…P13
落とさせない	「ボールを自分のコートに落とさず、捕りたい」	…P14
	「キャッチができるようになりたい」	…P15
	「ボールを怖がらずに捕りたい」	…P16
組み立てる	「パスがつながるようにしたい」	…P17
	「攻撃しやすいパスを出したい」	…P18
チームワーク	「声を掛け合って、ゲームしたい」	…P19
	「簡単な作戦をみんなで決めたい」	…P20

資料のガイドライン

実際の授業で見られる児童と教師のやり取りの例をもとに、児童が見いだす学習課題とそれに対する教師の手立てと言葉掛けをまとめました。



規則

○学習課題

サーブをコートに入れられるようにしたい

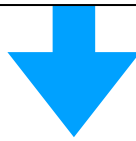
①相手コートにサーブが届きません。



②サーブが入るかどうかが心配です。どうしたらいいのかな。

○ケース（児童の考えの背景）

ラリーの続く楽しいゲームをしたい。しかし、サーブがネットに当たってしまったり、コート外に出てしまったりして、そもそもラリーが始まらないし、点を与えてしまう。もっと簡単にサーブが入るようにして、ラリーが続くようにしたい。



①どうしたら、みんながサーブをコートに入れられるようになるかな？

①投げる位置や投げ方の規則を工夫してみてもいいかな？



②サーブは入るかどうかが心配になるよね。サーブが失敗してもやり直せると安心できるね。

○指導のポイント

規則の工夫を考えるときには、「みんなが楽しめること」や「ゲームの特性をより味わわせること」ができるように考えることが大事です。相手コートにサーブを入れることに必死になるよりも、サーブが入ることを前提とし、ラリーが続くようにすることで、「落とす・落とさせない」に子供たちの視点は向かいやすくなります。また、サーブの失敗は、個人の失敗として目立ちやすいので、サーブの簡易化は、運動が苦手な児童への配慮にもなります。

規則

○学習課題

みんなが楽しめるようなゲームにしたい。

ボールをはじくのが難しい。うまく繋がらないよ。



○ケース（児童の考えの背景）

ボールをはじくことが難しく、自分の思い通りにボールをコントロールできない。友達に繋がなかったり、相手コートに返せなかったりし、楽しくゲームができていないため、みんなで楽しくゲームができるように規則を工夫したい。

ゲームをしてみましたね。今の規則で、全員が楽しめていたかな？



ラリーを続けるために、キャッチとはじくはどちらがいいかな？

全員が楽しめるように2本目をキャッチにしてみてもいいかな？

○指導のポイント

規則の工夫を考えるときには、「みんなが楽しめること」や「ゲームの特性をより味わわせること」ができるように考えることが大切です。自分が得点を決めることよりも、チームで点を取る、みんなで楽しむにはどうしたらいいか、規則の工夫をすることで、ボールに触ることができなかった児童もハードルが下がり、取り組みやすくなります。

規則

○学習課題

お互いに準備ができてから始められるようにしたい

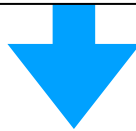
①まだ守りの位置に着いていないのに、相手にサーブを打たれてしまう。



②たくさん点を取るためにすぐにサーブを打ったら、相手からずるいと言われてしまった。

○ケース（児童の考えの背景）

サーブを受けるチームにとっては、作戦を相談したり、ポジションに着いたりした後、サーブを打ってほしい。サーブを打つチームにとっては、試合時間内により多く点を取るために、すぐにサーブを打ちたい。お互いに気持ちよくゲームができるように、守りの準備ができてから、すぐにサーブを打てるようにしたい。



①どうすれば、守りの準備ができたことを、相手チームに伝えられるかな？



②勝っているチームが時間を稼いでいると思われるためには、どうしたらいいかな？

②お互いに気持ちよく試合を始めるには、どんな始め方がいいかな？

○指導のポイント

規則の工夫を考えるときには、「みんなが楽しめること」や「ゲームの特性をより味わわせること」ができるように考えることが大切です。勝利のために時間稼ぎをしたり、準備不足の相手に不意打ちをしたりすると、みんなが楽しめません。時間内にたくさんのラリーを行い、ゲームの特性を味わうためには、準備を素早く行うことと、準備ができたらずすぐに始めることの両立が必要です。そのために、準備完了の合図やインターバルの時間設定の規則を工夫するとよいでしょう。

○学習課題

みんなで規則を守って楽しくゲームしたい

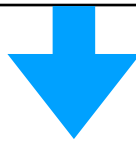
①規則をわすれちゃうよ。



②ゲームになると、つい規則をやぶってしまうよ。

○ケース（児童の考えの背景）

- ①規則を理解できていない。
- ②ゲームになると楽しくて夢中になりすぎてしまい、規則を守れなくなってしまう。本人に意図はない



①一緒に規則を確認してみよう！どんなところが分からないかな？



②ゲームに夢中になること自体は素晴らしいよ！規則をやぶってしまいそうになったら、どうしようか？

○指導のポイント

規則を守ることで、楽しく取り組めることを理解できるよう伝えます。規則の理解が不十分であったり、理解していてもプレーしている最中に忘れてしまったりしていることが原因の一つとして考えられます。本人に悪気はないことを理解して、ゲームに夢中になることを認めつつも規則を守ることの大切さを伝えていきましょう。また、規則がつかめない児童には一緒に規則の確認を行うとよいでしょう。

態度

○学習課題

協力して取り組めるようになりたい

①一人でプレーして、チームの考えを聞かない人がいるよ。



②準備や片付けを人任せにする人がいるよ。

○ケース（児童の考えの背景）

- ①運動に対して自信があるため、全てのことを自分1人で行おうとする子がいる。もしくは、これまでの学習経験で友達と協力してゲームに取り組むことの喜びを感じられていない子がいる。
- ②準備・片付けに対して、積極的になれない子がいる。



①1人の考えばかり使っていると、相手チームに有利なことはないかな？



②準備や片付けを1人でやるのと、みんなで協力してやるのでは、かかる時間に違いがあるかな？

○指導のポイント

運動に対して意欲的な面を称賛しつつも、友達と関わることに目をつけられるような言葉かけを繰り返し伝えていきます。チームで協力して取り組むことで、より楽しく運動ができるよう、「協力するメリット」を児童に気付かせることが大切です。

○学習課題

周りの安全を確かめて学習したい

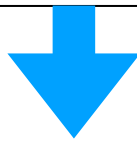
①準備や片付けを
とにかく早く済
ませてゲームし
たいけど…



②何が危ないか分
からないよ。

○ケース（児童の考えの背景）

- ① 使用する用具などを片付けて場の危険物を取り除こうという意識が低い。
- ② 安全を確かめる重要性に気付いていない。どのような危険があるのか理解できていない。



①この用具は、以前こん
な怪我があったそうで
す。安全に使うために
は、どのように使った
らよいですか。



②この道具は、どの
ような部分が危な
いと思いますか？

○指導のポイント

安全面の指導は、実技教科である体育科の学習では必要不可欠です。しかし、その重要性を児童が理解していなければ、児童は教師に言われたからやる、怒られないためにやるという認識になってしまいます。また、安全に関する認識が低いと次第に注意しなくなります。どのような危険があるのか、怪我の事例等を取り上げ、児童自身がその必要性に気付けるようにします。また、何を確認するか明確に指導することも大切です。

態度

○学習課題

周りとは仲よくしながら学習したい

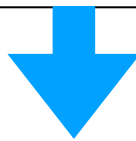
①いつも負けると悔しくて、挨拶できないや…



②（味方に対し）そんなプレーをしているから負けちゃうんだよ。（後で後悔する）

○ケース（児童の考えの背景）

- ①負けた相手と挨拶する気持ちになれない。挨拶をしなければいけないとは思っている。
- ②味方のミスを許せず攻めてしまう。後で後悔をする



①悔しいということは、その分真剣に取り組んでいた証拠だと思うよ！次のゲームの後には、勝敗に関わらず挨拶もできるとなおいいですね！



②味方のプレーの課題が分かっているってことだね！今のプレーのどこが悪かったのかな？

○指導のポイント

自分の態度や味方のプレーに課題を見いだせていることを称賛し、その意欲を相手に対する攻撃的な言葉でなく、プレーで示せるよう、方向転換させる言葉がけが大切です。どこがいけなかったのかを考え、優しく教えてあげることで、チームの勝利につながることを伝えていくとよいでしょう。

落とす

○学習課題

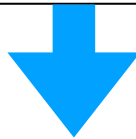
点をとりたい

点をとりたいけど、いつも相手に拾われてしまう。ボールを落とせません。



○ケース（児童の考えの背景）

点をとりたいけれど、相手にボールを簡単に拾われてしまう。どうしたら、点数につながるのかが分からない。



どこに落としたりいいか、どんなボールを返すか考えてみましょう。

強い球で相手に返してみよう。



相手のいないところをねらってみましょう。

- ネットの近く
- 後ろ（バックライン際）
- 人と人の間
- フェイント

○指導のポイント

点をとることができないと、ゲームへの意欲や面白さに欠けてしまいます。ゲームの特性をより味わわせることができるように、強く打つことやどこをねらうと得点につながるのかを考えさせることが大切です。クラス全体で共有することで、児童の動き方に変化が見られます。強く打つことができるようになってきたら、どこに返すとボールを落とせるかどうか子供たちも考えてボールを返すことで、作戦につなげていきます。

落とす

○学習課題

サーブで得点したい

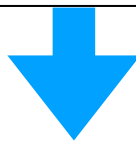
①サーブで攻撃をして
点をとりたいな。



②ねらいたい場所
にどうしてもう
まくいかない。

○ケース（児童の考えの背景）

サーブで点を取りたいけれど、どのようなボールを打ったら得点につながるかわからない。点が取れるサーブが打てない。



①落とす場所とボールの
勢いについて考えてみ
ましょう。

①人のいないところ
をねらうといいで
すね。



①高いサーブや速いサー
ブ、ネットぎりぎりの
サーブもいいですね。

○指導のポイント

サーブで点をとることが念頭に浮かびにくいことも考えられます。サーブは点をとるための最初の攻撃とも言えます。ラリーを楽しむことから、点をとる楽しさを体感できるようにしていくことも大切です。児童の実態にもよりますが、徐々にサーブも強く打ったり、ねらった場所に打ったりできるようにしていきましょう。課題把握のために、サーブの打ち方を見合う時間を設けてみるのも有効です。

落とす

○学習課題

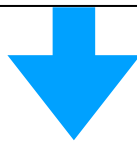
遠くに投げ返したい

後ろが空いていたからねらいたいのだけれど、どうしても遠くまでボールが届かない。



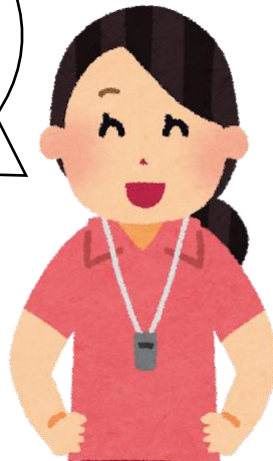
○ケース（児童の考えの背景）

落とす場所は理解できたのだが、攻撃する人が遠くに投げることができない。バックラインの近くまで投げるためには、どのようなことをしたらよいのか困っている。



遠くまで、ボールが投げられているチームを紹介しますね。
攻撃する人がどこから投げているのを見てくださいね。

コートにある線（バドミントンのショートサービスライン）やネットの近くから投げると、届くようになりますね。



○指導のポイント

ねらうポイントが分かっているにもかかわらず、できないときには、子どもたちはとてももどかしい気持ちになると思います。そこで、どのように動くとねらいたいポイントをねらせるのかを考えさせます。上手にできていたチームに実演してもらいながら説明をすると理解が進みます。また、見るポイントを示してあげるとより効果的です。

○学習課題

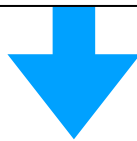
強い球で返したい

強い球で返したい
けど、できません。



○ケース（児童の考えの背景）

強い球で返せば、相手がボールをキャッチすることができないと思う。でも、どうやったら強い球で返せるのか分からない。強い球で相手コートに返せるようになりたい。



強い球で返すことに
気付いたのは、素晴らしいですね。
どうしたら、ボール
を強く返すことができます
と思いますか？

両手で返したり、ジ
ャンプして返したりす
ると、強い球が投げや
すくなりますよ。



○指導のポイント

「なぜ強い球で返したいのか」「強い球で返すにはどうすればいいか」など、「強い球で返す」ことのよさに気付かせ、思考を促します。その後、「強い球で返す」ことを追求し、自分たちで考えながら練習や試合に取り組むことで向上させていきます。強い球で返すために投げ方のフォームが確認できる資料や、運動のコツやポイントなどを確認できる資料を用意して、児童同士で確認できるようにするのも有効です。

落とさせない

○学習課題

ボールを自分のコートに落とさず、捕りたい

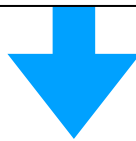
① 相手が投げる
(打つ) ボール
が捕れない。



② 友達とお見合いし
てしまうよ。

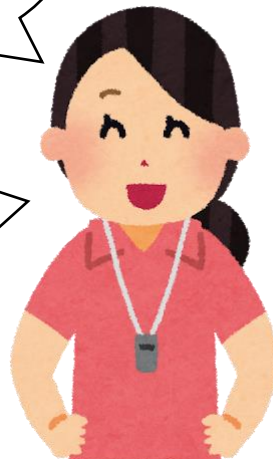
○ケース (児童の考えの背景)

相手 (打つチーム) が自分たちのいないところをねらって投げる (打つ) ようになったので、触れずにコートにボールが落ちることが多くなった。



① 自分たちだったら
どんなところをね
らいますか？

① 人と人のすき間や
いない場所をつく
らないようにしま
しょう。



② 友達と声を掛け合いま
しょう。また、それぞ
れがどの場所にいると
よいのかチームで考え
てやってみましょう。

○指導のポイント

児童がポジションを考えるときには、必要感や切実感が重要です。そのためにはまず、「落とす」ためにはどこをねらうとよいのかを理解していることが大切です。その上で、「落とす」の考え方を反対にし、落としたい場所をつくらないようにするという思考を引き出します。また、イメージの共有のために実際のゲームの一場面を切り取り、具体的な動きを指導することも、知識と活動を結びつけるために有効です。

落とさせない

○学習課題

キャッチができるようになりたい

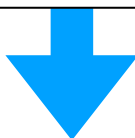
①捕りたいと思っ
ているけど、ボール
にさわれないよ。



②ボールをうまく
捕れないんだ。

○ケース（児童の考えの背景）

ボールの落下地点に入れなかったり、落下地点には入れるけれどうまく捕球することができなかったりする。



①相手の投げ方（打ち
方）をよく見て、ど
のあたりにボールが
飛んでくるか予想し
ながら動いてみよ
う。
最初の一步目が大
事ですよ。



②ボールに向かって
いかず、胸で抱き
かかえるように捕
りましょう。

○指導のポイント

ボールがうまく捕球できない児童は、落下地点に入ることができない場合や、体の正面で捕れていない場合などが考えられます。知識としては理解できていても体をうまく動かせない児童もいると思うので、慣れの運動から少し前後左右に動いて捕るような動きも入れて、慣れていけるといいでしょう。

落とさせない

○学習課題

ボールを怖がらずに捕りたい

①飛んでくるボールが怖いです。



②速いボールが捕れません。

○ケース（児童の考えの背景）

ボールが怖くて、うまく捕球することができない。

①ボールが勢いよく飛んでくると怖いよね。

①体のどのあたりで捕ると、あまり痛くなさそうかな？



②速いボールは難しいですよね。どんな姿勢でボールを待つと、捕りやすいかな？

②守りの作戦（ポジション）を考えて、自分の活躍できる場所を探してみよう。

○指導のポイント

ボールが怖くて捕球できない場合には、ボールを変更することが考えられます。またまずは児童の気持ちを肯定的に受け止め、体のどこなら痛くないのか、どのように捕球するのか技能について知ることで課題を解決することもできます。さらに、コート内の立ち位置を考えるなど、チームとして課題を解決することも促してみると有効です。

個人やチームの課題として解決するのか、ボール慣れでキャッチをする時間の確保をして解決するか、児童の実態や学習状況によって使い分けるとよいでしょう。

組み立てる

○学習課題

パスがつながるようにしたい

① うちのチームは、仲間同士でパスがうまくつながらないよ。

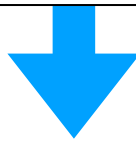
② キャッチした後に、誰にパスをしていいかわからないよ。

③ テンポよくパス回しができない。



○ケース（児童の考えの背景）

相手からボールが来てキャッチできても、仲間の中にボールが落ちてしまったり、セッターに上手くパスをつなげることができなったりするため、攻撃までテンポよくパスをつなげたい。



① コート内で誰がどこまで動いたら、うまくパスがつながりそうですか？

② 次に誰がキャッチすると、攻撃につながりやすいかな？

③ テンポよいパス回しをするために、どんな声をかけたらつながりそうですか？



○指導のポイント

「パスがつながらない」という子供からの声にも様々な原因と解決方法があります。コート内の範囲を意識させ、パスのもらう体制や位置の見直しに関わる助言ができます。また、迷ってしまう児童には、誰に渡したらよいかの目安や分かりやすい声掛けをすることも手立てになります。パスがつながるようになると、次第によりよい攻撃につなげていくか、うまく組み立てを考えることに繋がっていきます。

組み立てる

○学習課題

攻撃しやすいパスを出したい

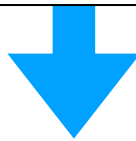
①攻撃する人がうまく打てないと得点できない。



②どんなパスを出したら攻撃の人が、攻撃しやすいのか分からない。

○ケース（児童の考えの背景）

攻撃する人に上手くパスをつなげることができないため、有効な攻撃ができず、点を取ることができない。トスをする人に上手くパスを返して、攻撃する人が打ちやすいボールにつなげたい。



①攻撃する人は、どの位置にいたら攻撃しやすいと思いますか。



②山なりと真っすぐのパスは、どちらが攻撃しやすいパスかな。

②どの向きでパスを受けると攻撃しやすいかな。

○指導のポイント

うまく組み立てる工夫を考えるときには、それぞれがどんな役割をしたらよいのか考えることが大切です。トスをする人は、攻撃につながりやすいパスを出すこと、攻撃する人は有効な攻撃をしやすい位置に動くことに気が付けさせます。また、チーム内でのパスはそれぞれ目的が違うことを理解させることで、より攻撃につながる組み立てをすることができます。

チームワーク

○学習課題

声を掛け合ってゲームをしたい

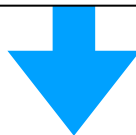
①失敗したときにどうしたら良いのか困ってしまうよ。得点できたのにだれも喜んでくれなくて、楽しくない。



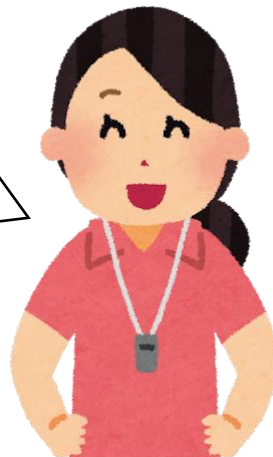
②お互いに遠慮したり、捕りにいったりして、落としてしまう。

○ケース（児童の考えの背景）

チーム内で上手くコミュニケーションが図れておらず、失敗をしたときにチーム全体が落ち込んでしまったり得点を喜び合えなかったりとゲーム中の雰囲気良くない。また、だれがボールを捕るのが曖昧になっている。そのため、複数でボールの落下点に入ろうとしたり、だれもボールに触れなかったりする。お互いに声を掛け合って、楽しくゲームをしたりボールが落ちないようにしたりしたい。



①失敗したときには、どうしてもらえると安心できますか。得点できたときには、何と言われたら嬉しいですか。



②だれが捕るか分かりやすくするためには、どうしたら良いかな。

○指導のポイント

児童が上手に声を掛け合えるようにするためには、まず、教師が率先して言葉掛けをしていく必要があります。「ナイス」「おしかったね」「〇〇さん！（のボールだよ！）」など、児童を称賛したり励ましたり、捕る人を示したりする言葉掛けを体育館（校庭）全体に届くように、何度も伝え続けていくことで温かい言葉のやり取りや勝つために必要なコミュニケーションがクラス全体に浸透していきます。

チームワーク

○学習課題

簡単な作戦をみんなで決めたい

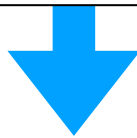
①なかなか作戦が上手
くないかない。



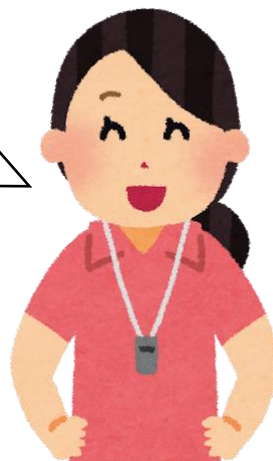
②作戦は決まってい
るけれど、自分が
何をしたら良いか
分からないよ。

○ケース（児童の考えの背景）

作戦が上手く行かない（チームの課題に気付いていない、きちんと作戦を理解できていない、作戦が難し過ぎて理解したり実行したりすることが難しい等の要因が考えられる）。チーム全員がきちんと理解でき、ゲーム中も意識しやすい簡単な作戦でゲームをしたい。



①どうして作戦が上
手くないかないと思
いますか。作戦が
難し過ぎるのかも
しれませんね。



②（チーム全体に向
けて）作戦を確認
しましょう。みん
なが分かりやすい
作戦はどのような
作戦でしょうか。

○指導のポイント

チームで話し合う際には、「発言力のある児童のみの意見が通っていないか。」「一部の児童が決めたことが作戦になっていないか。」「作戦を把握できていない状況になっていないか。」などを確認することが大切です。作戦が難し過ぎたり、抽象的であったりする場合は、教師が働きかけてより分かりやすい作戦にしていく必要がある。